

豊橋市におけるエコカー導入の応用一般均衡分析

韓 帥*

(豊橋技術科学大学大学院知識情報工学専攻修士課程)

宮田 譲

(豊橋技術科学大学大学院建築・都市システム学系)

アブストラクト：

二酸化炭素排出削減は周知のように喫緊の地球的課題である。日本の温室効果ガス全体の基準年(1990年度)排出量は12億6,100万t-CO₂であり、6%削減約束を達成するためには、第1約束期間における年(2008年から2012年)の平均総排出量を年間11億8,600万t-CO₂に削減することが必要である。一方、2005年度の日本の温室効果ガスの総排出量は13億5,900万t-CO₂、基準年比で7.7%の増加となっており、削減約束との差は13.7%と広がっている。このような背景から本研究では豊橋市を対象地域として、応用一般均衡モデルを構築する。そしてそのモデルを用いて、低炭素社会への移行に伴う経済的影響を調べる。二酸化炭素を削減する重要な手段として、エコカーや再生エネルギーの導入、さらに今注目されている新しい電力システム・スマートグリッドを取り入れ、シミュレーション分析を行う。二酸化炭素の削減、石油使用量の減少により、豊橋市が低炭素社会へどのように移行するのか、その可能性を評価する。